

シリーズ3、富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン②③

フォプシス・ステイローサ

職藝学院

教授 渡邊美保子

フォプシス・ステイローサは、コーカサスの山地に自生する寒さに強い宿根草です。日本では、ハナクルマバソウと呼ばれています。富山では、5月中旬から6月初めにかけて咲きます。花は、やさしい桃色で、たくさんの小花をひとまとめにした花束のような姿で咲きます(写真1)。草丈は、30cm位で、横にこんもりと広がってゆく性質をもちます。イギリスでは、ロックガーデンや宿根草ボーダー花壇の手前などに植栽されています。



写真1 : 6月初旬。開花する頃、花茎が立ちあがる。花には、甘い香りがある。

フォプシス・ステイローサの茎は、花の咲く前はタンポポの葉のように地面に寝そべっています。しかし、花が咲き始める頃になると、茎がしゃきっと立ち上がってきます。その茎の先には、数えきれないほどの薄桃色の小さなつぼみがぎっしりつまっています。つぼみはマッチ棒のような形で筒状に大きくなります。つぼみの先がぷくっとふくらむと、5つに割れて5枚の花弁になります。花が開くと中から透き通った桃色の長い糸のようなものが伸びてきます。花が熟してくると、その糸の先には白い粉が吹き出てきて、まるで白い綿棒の頭のような形に変わります。こうなると、次の出番を待っているつぼみたちは、また、マッチ棒の

ような形になって、先に咲いていた花と花の間から、割り込むように突き出てきます。こんなことが、何回か繰り返されて花が咲き進みます。

フォプシス・ステイローサは、四角形の茎の節を軸にして、ぐるりと一周するように細くてとがった葉をつけます。葉を数えて見ると、6枚だったり、8枚だったり、9枚だったりします。どんな決まりで葉っぱの数を決めるのかさっぱりわかりません。葉だけを見ると、道端でよく見かける雑草のヤエムグラとよく似ています。花の咲く前なら、雑草だと思って引き抜かれてしまいそうな姿です。

フォプシス・ステイローサは、午前中の日が差す所を好みます。東側に面して石積みをした花壇があるなら、石積みに沿って苗を植えましょう。水はけのよい環境がお気に入りです。花のついた茎は、ものすごい勢いで空いている所を見つけて伸びてゆきますので、花を楽しんだ後は、暴れている茎を思い切って短く切り戻します。

組み合わせは、クリーム色や淡い紫色のピオラや水色のワスレナグサなど、花の時期が少しずつ重なる一年草を隣に植えると良いでしょう(写真2)。宿根草では、タイム・ロンギカウリス、シバザクラなど、地面を這いつくばって生きるもの同志を植えますと、お互いに少しばかり気をつかいながら育つようです。



写真2 : 手前から、フォプシス、ピオラ類、ワスレナグサの組み合わせ。